

2025年5月26日

金沢地方裁判所 御中

意見陳述書

原告 山吹 啓

私は輪島市街地の真宗大谷派正覚寺という寺院の前住職・僧侶です。

学生時代の私は兵器としての核には反対でしたが、原子力発電所に対してはなぜ反対するのか理解できず、「日本人は核アレルギーが強く、平和利用にまで反対するのか」という感覚で、核の平和利用は積極的に推進すべきだと思っていました。

ところが、そんな23～4才（1978～1980年ごろ）の私に不思議な出会いがありました。京都へ向かう急行列車の中で、福井から乗って来た年のころは35～40歳ぐらいの青年が私の正面の座席に座り、話しかけてきました。

「兄ちゃんはどこの者や？」

「石川県の輪島の者です」

「おれは五木ひろしの実家の近所の者や。あいつの母親は五木ひろしを苦勞して育ててなァ…」と話し始め、私はそれを興味深く聞きました。その話題が一段落したところで、突然「ところで兄ちゃん、原発って知っとるけ？」と聞いてきました。私は五木ひろしが原発の建つ福井県美浜町の出身だと知っていたので、「福井県はすごいですよねえ。いち早く原発という最先端の科学技術を受け入れて。新しいものを取り入れなければ、地方は衰退するばかりだと思いますよ…」と日ごろの思いを話しました。

すると、彼は「おれも原発ができるまでは、温排水で魚の成長が進み漁業の振興にも役立つと、いい話ばかり聞かされて期待しとったんや」。「ところが、この間原発の温排水が流される海へ潜ってみたんや。そしたらな、（両手で洗面器ほどの輪を作りながら）こんな化け物みたいなアワビがおるんや。海の色もおかしい、魚や海草も様子がおかしいんや。おれは漁師やから難しいことはわからんけど、海がまともかどうかがうらいはわかる。ありゃあ化け物の海や。気持悪うて、すぐに上がってきた」「原発は安全でいい物だと信じてきたけど、どうも違うんじゃないか、おれは二度と近づかんようにしとる…」と言うのです。

私は原発推進論者だっただけに、その言葉がショックでした。彼は原発に関しては素人でも、“海のプロ”です。そのプロが化け物の海だというのは。私の中にその言葉が深く突き刺さりました。

数年後、先輩の僧侶から原発の学習会に誘われました。NASA（アメリカ航空宇宙局）の研究員を勤めた埼玉大学の市川定夫教授が講師でした。ムラサキツユクサは環境の変化にとっても敏感で、突然変異を起しやすい植物で、放射能が生物に与える影響を測るバロメーターだということでした。

地球誕生当初は放射線量がたいへん強くて、それに適応した生物が生まれたそうです。それから暑くなったり寒くなったりし、放射能も徐々に少なくなり、そこに住む生物も環境に適応したものへと変化していったそうです。「強いモノが生き残れるのではなく、環境に適応できるモノが生き残ってきた」それがダーウインの進化論です。現在地球上に存在するのは、今の地球環境・放射線量に適応した生物のみであり、それ以外の生物は存在できない。人間が人工的に放射能を作り出すということは、自分たちが存在しえない環境を作り出すということであり、人間が人間でなくなることを意味するということでした。

私は数年前に聞いたあの青年の言葉は本当だったんだと思いました。地球に生かされているということを忘れ去り、生命の源である地球環境を破壊しようとしている人類のあり方は、自己否定以外の何ものでもないと思いました。そして私は人生に悔いを残さないため、原発に反対していこうと思いました。

2007年3月25日、震度6強の地震が起きました。その地震は千年に1度の地震と言われました。しかし、それから20年も経たない2024年1月1日、2千年～3千年に1度といわれる震度7の大地震が発生しました。

2024年元日の地震では、近在のご門徒の方が一人寺にいました。一緒に避難して、本堂で避難生活をしました。翌日2日、その方の家に向かって車で出かけたのですが、道路の陥没、電柱の倒壊、崖崩れでその方の集落に行くことはできませんでした。そこは市街地に隣接した集落ですが、孤立状態でした。

1月3日、そのご門徒の息子さんが勤務する能登空港へ出かけました。通常なら20～30分の距離ですが、行きは1時間30分、帰りは2時間以上かかりました。道路の陥没、崖崩れなどによる迂回と渋滞のためです。

2024年9月21日線状降水帯が発生し、豪雨災害が起きました。多くの地域が再び孤立状態となりましたが、県道1号線でも崖崩れが発生し、輪島の市街地は12時間ほど孤立状態となりました。道路ばかりではありません。元日の地震では地殻変動が起り、5～6mの隆起により漁港などが使用不可能となりました。

2007年の震災、2024年の震災でも津波警報が出されましたが、私たちの地域の防災無線は機能せず、二度とも津波警報を知らされませんでした。停電のためテレビを見ることはできず、NHKのAM放送も受信できませんでした。どこでどのような支援が行われているのか、自分たちの置かれている状況を知ることができず、情報難民状態でした。

福島第一原発には敷地の高さ10メートルを越えて、最大15.7メートルの津波が来襲する可能性があるという専門家の指摘があったにもかかわらず、そんなものは起こらないだろうと放置した結果、東日本大震災が起ってしまいました。

能登半島西方の志賀町沖でしばしば地震が起っています。もし志賀原発付近で大地震が発生し、原発が重大事故を起こして大量の放射能が漏れたら、救助復旧活動は不可能となり、同時に原発事故の処理も住民の避難も極度に困難となります。海岸の隆起などにより、船による避難も不可能となる可能性があります。能登のほとんどの住民が犠牲者とならざるを得ないのです。

原発は事故を起こさなくとも使ってはならない技術だと思いますが、能登半島で震災が続き志賀原発沖で地震が続いている現状から、志賀原発は廃炉にすべきだと思います。